

# 第21回IARU世界ARDF 選手権大会報告

21st IARU World ARDF Championships  
August 27 - September 2, 2023  
Liberec, Czechia



▲日本選手の皆さん

2023年8月27日～9月2日、チェコ共和国リベツで第21回IARU世界ARDF選手権大会が開催され、28か国から354名の選手が参加しました。JARLはJF0JYR高橋哲也ARDF委員長(信越地方本部長)を団長とする選手15名、役員等3名の選手団を派遣しました。

## ■ コロナ禍での選手選考

これまで国際大会への派遣選手の選抜は前年に開催された全日本ARDF競技大会の成績優秀者から選抜されてきました



▲日本の若手選手の皆さん

が、コロナ禍で3年間開催されていなかったため、前年開催の公式大会成績優秀者などから選抜することになり、JARL Webで告知して参加希望者を募って選抜されました。言わば立候補制ですが、出場経験豊富なベテラン選手、国内での実績はあるが世界は初めての中堅選手、コロナ禍の3年間にARDFを始めた今後が期待される選手と、バランスの取れた編成になりました。前回の派遣(2018年・韓国)よりは人数は減り、特に高校生は1名だけでした。感染状況や国際情勢の不安があったのかもしれませんが。

## ■ 実質開幕はトレーニングから

大会前の8月24日から受信練習として、任意参加のトレーニングキャンプが開催されました。世界大会の練習会はARDFワールド・カップと銘打った大会形式が取られることがありますが、今回は表彰などをおこ



なわない純粋な練習会として、スタッフの負担は小さいものでした。

宿舎から徒歩圏内の山が会場で、運営時間内に各自が任意にスタートしました。本大会は休養日を挟んで1日1種目、ト



▲トレーニングキャンプで本場のARDFを堪能

レーニングキャンプは2日間で4種目をおこなうため本大会よりもハードだったかもしれません。本格的な競技基準のTX配置で険しい地形の部分もあり本場のARDFを堪能しました。日本選手は13名、各国選手も多くがトレーニングキャンプから参加する9泊10日のARDF三昧の日々が始まりました。

## ■ 宿舎での日常

宿舎は1部屋に2人が入り、机も設置されていて、2部屋ごとに共用のキッチン、冷蔵庫、シャワー、トイレがあります。Wi-Fiの名称は「hotel」となっており、宿泊研修施設として一般に開放しているようです。レセプション(フロント)や各部屋のごみ回収は学生のアルバイトと思われる若い方々がおこなっていました。

ARDF三昧の日々と言っても学業のある選手は教科書を持参して帰国後の定期試験勉強や、海外の学会に直接向かうための発表資料の整理などにも勤んでいました。

市中心部への便が良いので、競技を終えてから買い物に出かけることもできました。旧市街地では音楽イベントやビール祭などに遭遇してリベツの街を楽しんだり、EU域内では国境通過が自由なため休養日には国境を超えての小旅行が楽しめました。コインランドリーで洗濯や、最終日の朝に土産購入の弾丸ショッピングに市中心部へ出かけることもありました。

## ■ 簡素ながら ARDFerのための運営

8月27日は大会集合日、大会本部と宿舎となったりリベツ郊外のリベツ技術大学寄宿舎に各国選手が続々と到着し、トレーニングキャンプ参加の先陣と合流。顔馴染みの外国選手との再開を喜び合いました。

開会式・表彰式は近くの大学校舎でおこなわれました。宿舎と式典会場には参加各国の国旗が掲げられ、全体的に手作り



▲開会式の日本選手団旗手はJA1-44425村重光一さん(茗溪学園高校)(写真・中央)



▲参加者への配布物(左)、「ARDFあるある」イラストカード(一部)

感がありました。開会式で各国旗手が持つプラカードも、国旗と国名を印刷した紙をラミネート加工して角材に取り付けた自作品でした。遠来の参加者を歓迎しての芸能ショーは開会式前後に太鼓パフォーマンスを短時間演じ、参加者にとって疲れすぎない適度なものでした。

スタートとゴール地域の各テントは日頃使用している物を集めたように見え、中には過去に開催されたオリエンテーリング大会のロゴが付いているものもありました。かき集めた故か、大会前半は雨天でしたので「選手待機用テントが小さい、少ない」との声がありました。

参加者に配られる大会ロゴ入りの記念品は業者に発注したものでしょうが、一番好評だったのは絵心のあるARDFerが描いたと思われる手作りの「ARDFあるある」のイラストカードでした。

★ ★

中間日(8月30日)は競技をおこなわない休養日です。これまでの大会では貸切バスで文化施設などを訪れるツアーが催されていましたが、今大会では企画がありませんでした。選手は各自で完全な休養や軽いトレーニング、路線バスで市中心部に行って買い物や観光な



▲ゴールする日本選手

ど自由に過ごしました。最寄りバス停は、平日は1時間に3便運行していて市中心部へは20分ほど。徒歩でも1時間で可行的な利便性が有ったため、ツアーの必要性は感じませんでした。選手は自己の状況に合わせた休養が取れ、スタッフにとっても休養になる、運営経費節減の「何も企画しない」が今後の主流になるのかもしれない。



▲大会事務局のようす

## ■ 雨模様だった大会

競技は宿舎から数km離れた牧草地やスキー場が点在する山間部でおこなわれました。どの競技地域も通行容易度の高い森林で素晴らしいコースでした。競技地域とゴール地点は事前に公表(大会ブリテン3号掲載)されていたので、当該地域のオリエンテーリング地図を入手している者もいて、スタート地点とTX配置を予想するのも楽しみの一つでした。



▲いざ、スタートへ!

## ○第1競技(8月28日):クラシックその1

若年クラスは3.5MHz帯、年配クラスは短い走行距離で144MHz帯です。どちらもスタートとゴールは同一で、クラシックその2では周波数帯の入れ替えとなります。比較的好天だったトレーニングキャンプとは





変わって雨模様の大会となり、小雨でしたが冷たい雨で、選手は雨を避けて小さなテントの下でスタート呼び出しを待つのが一番辛かったです。

○第2競技(8月29日):スプリント

ゴールする選手はずぶ濡れで、この競技が一番の雨に感じました。見せる競技とするために観覧場所となるスペクテーター(観客席)が設けられたスプリントですが、今回も観客のスペクテーターへの誘導はありませんでした。観客がゴールから自由かつ容易に行き来できる位置にスペクテーターを配置するのは困難なのかもしれません。

○第3競技(8月31日):クラシックその2

競技終盤に雨は上がりましたが、競技地域が見えないゴールでしたので、選手が突然ゴール走行コースに現れるため観客は応援に戸惑っていました。

○第4競技(9月1日):FOX-O(最終種目)

やっと雨が終わり、選手の気持ちも明るくなり、ゴールは広い草地で緑も輝いていました。ゴール走行コースはこれまでの倍以上の長さだったため選手には辛かったと思いますが、応援の子どもたちはゴールに向かう選手と楽しそうに併走していました。



▲応援を楽しむ子供たち(左)、旗を掲げて併走

世界大会のゴール地域はにぎやかなので、ゴール近くで迷ったら騒がしい方向へ向かえば良いです。観客(主に競技を終えた選手)はゴールに向かう選手に声援を送ります。今大会では、ゴール走行コース横でスタッフがゴールに向かう選手の氏名、クラス、国名をアナウンスし、さらにスマートフォンで集計速報を確認してその選手の競技結果を読み上げていました。

競技を終えた選手にはビールなどが振る舞われ、お祭りのような楽しいひと時となりました。救急車も待機していて、負傷者は車内で救急の専門家による処置を受けていました。集計速報はモニターと紙札掲示でおこなわれました。



▲日本選手の皆さん



▲ゴール地域のような様子(左)、ゴールのアナウンス担当者

日本選手は上位に入ることはありませんでしたが、前半(クラシック1, スプリント)ではタイムオーバーや最下位が多かったものの、後半(クラシック2, FOX-O)は慣れたのか順位や探索数を上げる傾向でした。外国選手との実力の違いを見せつけられても、今後も世界大会に積極的に挑戦したい気持ちは変わりません。「2年後もっと強くなって帰って来よう!」と誓いあって解散しました。そのような気持ちにさせてくれるのが、世界大会です。



▲外国選手との交流も楽しんだ(左)、晩餐会では次回大会への決意を語った

■戦禍を超えて

ARDFの3強国はチェコ、ロシア、ウクライナで、今回はロシアの参加はありませんでした。ウクライナからは38名と多くの選手が参加しました。戦争で苦しい国からの参加ですが、ウクライナ選手は競技地域でも表彰台でも明るくて元気でした。次の世界大会開催時には平和であることを願うばかりです。

▷大会サイト <https://ardf2023.cz/>

(レポート: JP3EVM 植木 等)



▲ウクライナ選手の皆さん、表彰台はチェコとウクライナが占めた

